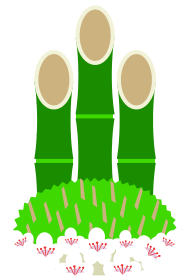




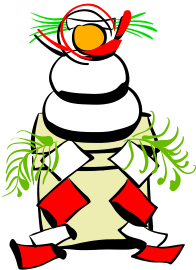
諏訪小だより



富士見市立諏訪小学校

令和7年1月22日学校だより NO. 10

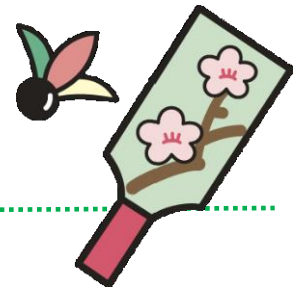
校長 石井 勝博



お正月の言葉

保護者・地域の皆様におかれましては、令和7年の新春をご健勝にてお迎えのこととお慶び申し上げます。諏訪小学校の子どもたちにとって、また、保護者・地域の皆様にとって良い年になりますようご祈念申し上げます。本年も、本校の教育活動に対する保護者・地域の皆様の一層のご理解とご協力・ご支援を宜しく願っています。

先日、朝、2年生の子どもと校庭を走っていると「校長先生、どうして走ると体が暖くなるの」と質問をされました。質問に対するよい応えは言えませんが、子供たちが「なぜ？」と考える姿勢は大切にしていきたいものです。「なぜ？」と思うことから学びが進み、学ぶことが楽しくなっていくのではないのでしょうか。学校でも「なぜ？」を大切にしながら学習を進めていきたいと思っております。



さて、お正月には、普段耳にしないいろいろな言葉があります。「門松」「初日の出」「年賀状」「お年玉」などお正月にしか使われません。また、お正月の行事、遊びとして、その言葉や遊びは残っていても、意味を知っているかと問われると知らない人のほうが多いように思います。そこで、それぞれがどのような意味があって使われているのか、少し調べてみました。

特に子供たちに関係のあるものについてあげてみると、遊びだけでも、「かるたとり」「すごろく」「福笑い」「羽つき」「たこあげ」「こま回し」などがあります。

「なぜ、新年にこのような遊びをするようになったのでしょうか？」

たこあげ 昔は新年を迎えると男の子の誕生を祝って元気に育つように願って凧があげられたそうです。

羽子板 江戸時代新年に、美しい絵の描かれた羽子板が女の子に贈られました。「病気を起こす」と信じられていた悪い気を追い払って、健やかに育ってほしいという願いを込めて部屋に飾られたそうです。

すごろくやかるた取り 子どもが楽しみながら数や文字を覚えたり、生活の知恵に気づいたりできるように生まれたそうです。

このようにお正月に関係する言葉を調べてみると健康に元気でたくましく成長してほしいとの願いが込められていることがよくわかります。お正月に関係する他のたくさんの言葉は、それぞれ新しい年に良いことがあるようにという願いが込められているようです。私たちは、言葉や遊びだけを伝えるのではなく、その意味も含めて伝えなければならないと改めて考えさせられました。

<本物に触れる>

NHKのラジオ体操の指導者で、NPO法人全国ラジオ体操連盟の理事長を務める鈴木大輔氏をお招きし、1、2年生、なの花で授業を行っていただきました。

普段動かさない体の部位を動かしたり、ラジオ体操の一つの動きを丁寧に動かしたりするなど、丁寧に教えていただきました。子供たちも楽しく、気持ちよさそうに体を動かしていました。